

# 私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

## 2014(26)年 週 報

5月11日

第2 聖日

3351号

「召しに相応しく」

(Iテサロニケ連続講演第7回)

聖  
言

ご自身の御国と栄光とに召してくださる神にふさわしく歩むように勧めをし、  
慰めを与え、おごそかに命じました。(Iテサロニケ2:12)

### 礼拝の恵みVI

モーセは礼拝を重要視した。なぜなら神は彼を選び、彼を自身の血潮によりエジプトより贖い出されたからである。彼は神との交わりを喜び、ますます深く神を知る事を願う。「主はモーセに仰せられた。『あなたの言ったそのことも、わたしはしよう。あなたは私の心にかない、あなたは名ざして選び出したのだから。』すると、モーセは言った。『どうか、あなたの栄光を私に見せてください。』(出エジプト三三ノ一七、一八) モーセは神の栄光を見たいと願った。そのために神は四重の用意をされた。第一は受け入れられる場所「見よ。わたしのかたわらに一つの場所がある。」(二一節)。第二は立つべき土台「あなたは岩の上に立て。」(二二節)。第三は土台の岩の中の場所「わたしの栄光が通り過ぎるときにはわたしはあなたを岩の裂け目に入れ」(二二節)。第四は岩の中の保護を与えられる。「私を通り過ぎるまで、この手であなただをおおっておう。」(二二節)。そのときモーセは驚くべき啓示が与えられた。そしてモーセは神に謙虚で敬虔で真剣な心の礼拝をささげた。「モーセは急いで地にひざまずき、伏し拝んで、お願いした。『ああ、主よ。もし私があなただのお心にかっているのですら、どうか主が私たちの中で、進んでくださいますように。確かに、この民は、うなじのこわい民ですが、どうか私たちの咎と罪を赦し、私たちをご自身のものとしてくださいますように。』(出エジプト三四ノ八、九)

(APギブス礼拝参考)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区长田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年五月四日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「聖潔の道」

〔ペンテコステ連続講演第2回〕

「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、また、このようなことで兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。」(Iテサロニケ四ノ三〜六)

テサロニケIの手紙はイエス様御再臨の喜んでお迎えするための書簡です。テサロニケの町はギリシャ文化の自由を追求する都市です。海外宣教活動や聖会に出るときは罪は犯しません。しかし一人で自由を与えられると誘惑に会う機会が増えます。ダビデは部下が戦場に行っている時王宮で昼寝をし、屋上で夕涼みをしていて女性が水浴をしているのを見てしまったのです。そして人妻であるのを知りながら姦淫を犯し、最終的にはその夫も殺してしまいました。自由を罪の道具とせず、義の道具としなければなりません。「自分のからだを、聖く、また尊く保ち」は結婚のことです。性欲は本能であると考えるのでなく、結婚は情欲におぼれず、相手を踏みつけたり、欺いたりしないで自分の如く愛さなければなりません。その時、神様は真実の結婚の喜びを与えてくださいます。神様は聖いものと汚れを区別されます。聖来は自分の努力でなれません。水と血と火によって聖くされます。水とは罪を悔い改めて洗礼により汚れを洗われるのです。血はイエス・キリストの十字架の血により罪の赦しを受けます。人は聖霊によって罪を犯す性質を焼き尽くされるのです。

二〇一四年五月五日(月) 午前一〇時 聖会① 山本牧師

「聖霊の喜び」ペンテコステ連続講演③

「兄弟あいについては、何も書く送る必要がありません。あな

た方こそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。実にマケドニヤ全体の全ての兄弟に対して、あなたがたはそれを実行しています。しかし、兄弟たち。あなたがたにお勧めします。どうか、さらにますますそうであってください。また、私たちが命じたように、落ち着いた生活をすることを志し、自分の仕事に身を入れ、自分の手で働きなさい。外の人に対してもりっぱにふるまうことができ、また乏しいことがないようにするためです。眠った人々のことについては、兄弟たち、あなた方に知らないでいてもらいたくありません。あなた方が他の望みの無い人々のように悲しみに沈むことのないためです。私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあつて眠った人々をイエスといっしょに連れてこられるはずでです。私たちは主の、御言葉のとおりに言いますが、主が再び来られる時まで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラツパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、先ず始めによりみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになりす。こういうわけですから、このことばをもって互いに慰めあいなさい。」

(テサロニケI四ノ九〜一八)

(7) 聖潔を得させるため

(9) 互いに愛し合うこと

(11) 落ち着いた生活をして、自分の仕事に身を入れなさい。

(12) 眠った人々のことについて悲しみ沈まないよう n



(15) 生きている私たちが優先することはない

(16) ラツパとともにまず、ご自身が天から下つて来られる。先ず死者がよみがえり、次に私たちがよみがえる。

聖霊の喜び聖潔と愛と仕事に励み、復活を待ち望む中にある。丁度、信仰によって聖霊のバプテスマがあるように。善行の行為がは義とされることはないが。主の救いを感謝して奉仕をさせていただけると言う感謝の中に善行の証しと共に喜びの証しがあります。肉体的な喜び、精神的な喜び以上に聖霊の内住はさらに勝るものです。第一に伝道したくて仕方が無いのです。本当に愛があるなら伝道します。第二は自分の仕事に励みます。第三は再臨を持ちのぞみます。そのとき私たちは復活して主のもとに引き上げられます。

## 二〇一四年五月七日午後七時 祈禱会 山本牧師

「召命のことば②」エゼキエル二ノ六ノ三ノ三

「人の子よ。彼らや、彼らのことばを恐れるな。たとい、あざみといばらがあなたといっしょにあつてもまたあなたがさそりの中に住んでも、恐れるな。彼らは反逆の家だから、その言葉を恐れるな。彼らの顔にひるむな。彼らが聞いても、聞かなくとも、あなたはわたしのことばを彼らに語れ。人の子よ。私があなたに語ることを聞け。反逆の家のようにあなたは逆らつてはならない。あなたの口を開いて、わたしがあなたに与えるものを食べよ。そこで私が見ると。なんと、私のほうに手が伸ばされていて、その中に一つの巻物があつた。それは私の前に広げられると、その表にも裏にも字が書いてあつた。哀歌と嘆きと悲しみがそれに書いてあつた。その方は私に仰せられた。「人の子よ。あなたの前にあるものを食べよ。この巻物を食べ、行つて、イスラエルの家に告げよ。」そこで、私が口を開けると、

その方は私にその巻物を食べさせ、そして仰せられた。「人の子よ。わたしがあなたに与えるこの巻物で腹をしらえをし、あなたの腹を満たせ。」そこで、私はそれを食べた。すると、それは私の口の中で蜜のように甘かつた。」

多くの人々に伝道する人も伝道するたびに恐れるものである。それは伝道とはさそりの中に住む危険が伴う。神様はあえてその様なところに導かれ、福音を語る勇気をあたえてくださる。勇気の源泉は御言葉である。聖書を読むときに喜びを感じる人。悲しみを感ずる人。何も感じない人。神様は感じる人。人を喜ぶ。エゼキエルは甘く感じ、ヨハネは苦く感じた。彼らは主に用いられた真の預言者である。エゼキエルはバビロンのケバル河で活動をし、エレミヤはエルサレムで活動した。ヨハネはパトモス島で活動した。エゼキエルは神の言葉を聞いていた。神は彼を人の子よと呼ばれた。聖霊が汝らの上に臨む時とあるように、彼は立ちあがった。そして同胞に宣教の使命を与えられた。それは叱責の預言である。裁きの預言である。人受けしない生命の関る預言である。エゼキエルも口を開きしてはならないと神は語られる。それは辛い、否な、言いたくない悲しい預言である。預言をせよと言うだけでなく預言の書いた巻物を食べさせてくださる。